# 戦略的優先課題の決定プロセス

課題の抽出 (リスクと機会の洗い出し)

外部的な視点での評価

社会的な課題について、SDGsや日本国内外のマクロ的な動向、サステナビリティ報告書の枠組みを制定しているGRI (グローバル・レポーティング・イニシアティブ) 等を参照しました。

省庁の政策、業界の動向、主な拠点である東三河の自治体の総合計画、顧客が掲げているマテリアリティ(重点課題)を参照しました。

## 主活動(主に企業において価値を提供する部分)

		** 社会 (ゴミの発生源含む)	収集•運搬	中間処理	リサイクル
	適正処理 資源循環			▶廃棄物(産業・医療系等) の適正処理	・リサイクル率の向上
	脱炭素	▶再エネの普及促進			
人・地球に もっと+	地球共生	<ul><li>コミュニティへの参画</li><li>海外とのつながり</li></ul>			
	自然共生	<ul><li>生物多様性の尊重</li><li>緑化推進</li></ul>			
	労働環境改善	<ul><li>ステークホルダーの 働きやすさ改善</li></ul>			
	脱炭素			▶二酸化炭素排出量の削減	
	地球共生	<ul><li>・地域美化</li><li>・防災拠点機能</li><li>・持続可能な教育</li></ul>			
人・地球を守る	自然共生		→ 水使用量の削減 (リサイクル)		
	労働環境改善		<ul><li>交通事故の抑制</li></ul>		
	コンプライアンス遵守			・地域への汚染予防	

# 自社の今後の方針・期待に応えることが できる部分を整理

本業のバリューチェーン上(主活動と支援活動の両側面) について、正のインパクト最大化(ここでは、人・地球にもっ と+と定義)及び負のインパクト最小化(人・地球を守る と定義)について検討しました。 **唯**定

全てのプロセスを考慮し、戦略的優先課題を

本業のバリューチェーンを越えて、社会全体における機会や 潜在的に抱えるリスクについても考慮し、それらについて主 力事業である廃棄物処理事業だけでなく、包括的に社会課 題にアプローチできる部分を検討しました。

## 支援活動(バリューチェーンの主活動の基盤となる部分)

			調達活動	技術開発	人的資源確保	企業インフラ
	・地球に	適正处理 資源循環		▶処理困難物のリサイクル の処理方法確立		
	もっと+	労働環境改善			<ul><li>健康経営の促進</li><li>ワーク・ライフ・バランスの整備</li><li>社員の成長</li></ul>	▶DXの推進
,	<b>∖•地球を</b> 守る	脱炭素	<ul><li>→ グリーン購入の促進による 二酸化炭素削減活動</li><li>→ 再エネ調達の推進による 脱炭素促進</li></ul>			
		労働環境改善			<ul><li>労働安全の確立</li></ul>	
		コンプライアンス遵守			<ul><li>労働安全の確立</li><li>法制度の遵守</li></ul>	▶セキュリティ強化

### ▶ 定義

人・地球を守る:『SDG Compass』で示されているエントリーポイントA「人・環境へのリスクを最小化」することを「人・地球を守る」活動と定義しました。

人・地球にもっと+:同様にエントリーポイントB「有益な製品・サービス・投資によって自分の会社が最も貢献できる」ことを「人・地球にもっと+」な活動と定義しました。

※弊社の廃棄物の適正処理・リサイクルにおける本来のバリューチェーンに加え、廃棄物が発生する「社会」についても弊社独自で検討しました。ここでは社会を主語として、社会にとって求められる「人・地球を守る」活動ならびに「人・地球にもっと+」な活動を抽出しました。